

分科会報告まとめ（中村俊彦）



今年の全体テーマ「里山と子ども」を中心に議論を展開してきた14の各専門分科会の報告が終わりました。

私たち大人がつくってきた今の日本の社会、これは世界でも最も豊かで便利な社会と言って過言ではないと思います。しかし、この社会、子どもにとってはどうでしょう。むしろストレスと危険だらけの社会ではないかと思うのです。

私たちが、子どもの頃には、どんな都会の中でも里山が存在し、子どもにとって、そこは自然いっばいの遊びと学びの空間でした。しかし、今の子どもたちには、遊びの三間（さんま）が無いと言われます。遊びの空間、遊びの時間、そして遊びの仲間です。私は、子どもたちの遊びについて小学校の先生と調査研究をしたことがあります。よく言われます、今の子どもたちは家の中でのテレビ・ゲームの遊びが多く、外遊びが少ないといった状況がはっきり示されました。しかし、実際の遊びの状況とともに、遊びの希望調査では、森林、川沼などで自然の中での魚取りや虫取りなどの希望が多かったのです。すなわち子どもたちは、仲間とたっぷりの時間も必要な自然のなかでの遊びがかなわないうために、家の中でのゲーム遊びに追いやられてしまっている状態なのです。

この理由はいろいろあると思いますが、自然の中の遊びを危険として、大人がそうさせないこともあるようです。自然の中には、もちろん危険もいろいろあります。しかし、子どものころにケガもしたことの無い状態では、おとなになって大きな危険に自分で対処できないことになりかねません。

さらに最近では、自然の中での体験が、人の心、すなわち脳の発達・活性まで影響している状況もわかってきました。外界からの多様な刺激は、五感を通して感じ、これに対応する身体をつくっていきます。この外界からの刺激は、ホルモンの分泌を促し、脳の発達、特に思考・判断を司る大脳新皮質の前頭葉の発達・活性に作用するのです。

里山での遊びを通して、子どもは、子どもの時

にしか経験した学べないいろいろなことができるのです。自然の中での体験は、人としての成長過程において必要不可欠のものであり、決してオマケではないのです。

私たち大人が造った今の都市空間またその社会、子どもの視点からもう一度見直す必要があると思います。そして、私たちの食料や水・空気と言った多様な資源・エネルギーの観点の他に、人の心や健康の面からも里山の価値を再評価し、子どもや孫、そして将来の人々にこの里山を守り、伝えていくことは私たち大人の責務だとも思います。

里山と子ども

中村俊彦

環境/資源

水田/稲作
生物/ビオトープ
森林/林業
竹
水循環
野生動物

食
医療/福祉
政策

心/からだ

教育/学習
芸術
調光
文化/伝統
子どもの健康

1. 子どもの視線で現代の大人社会を見る

大人がつくった便利で豊かな現代社会

(都市・情報・経済・モノ)

▼ ▼ ▼ ▼
(人造・思考停止・競争・物欲)

▼ ▼ ▼ ▼
(無生命・脳力低下・いじめ・犯罪)

子どもにとっては質しく危険なストレス社会

2. 子どもにとっての里山の価値を考える

人としての脳(心)と身体をつくりだす
里山での自然体験はオマケではない!